

いのうえ やすし
井上靖ってどんな人？

井上靖は、昭和25年頃から約40年間活躍した日本を代表する作家です。明治40年に、父の任地である北海道旭川市で生まれましたが、1歳のときに静岡県の伊豆湯ヶ島に移り、3歳から13歳まで、おかの婆さん（作品の中ではおぬい婆さん）と土蔵の中で暮らしました。また、一度浜松中学に入学しましたが、15歳から18歳までは、三島の伯母さんの家から沼津の中学校（※）に通いました。大学を出てから新聞記者となり、40歳の頃から作家となって、平成3年に84歳で亡くなるまでに、『あすなろ物語』、『氷壁』、『天平の薨』など800以上の小説や詩を書きました。これらの作品には、親しみやすく温かいストーリーのものも多く、今でも多くの人々に読まれています。



井上靖記念文化財団・写真提供

※当時の中学校は5年制でした。

『しろばんば』と『夏草冬濤』の魅力

二つの作品は、井上靖の分身である『洪作少年』が主人公となっており、『しろばんば』はその小学校時代、『夏草冬濤』は中学校時代を描いたものです。湯ヶ島の野山を駆け回って遊んだ子供時代、若い叔母さんへのほのかなあこがれ、そう言えば子どもの頃ってこんなこと考えていたなあ…と、自分の子ども時代を懐かしく思い出します。中学生になった洪作、友だちと遊びまわる一方、登下校ですれちがう女学生たちにドキドキしたり、成績や将来のことが気になったり…、現代の中高生が読めば、そこに等身大の自分を発見することができるでしょう。おとなも子どもも、思わず、青春のきらきらとした世界に引き込まれてしまう作品です。

『しろばんば』

『夏草冬濤』の世界へ

ようこそ

静岡県東部・伊豆は文字のふるさと

井上靖の『しろばんば』『夏草冬濤』の舞台

主人公洪作少年ゆかりのスポットが

いたるところに点在しています

うつくしい自然とふるさとへの想い

街のにぎわいと未知へのあこがれ

あなたも

洪作少年とともに

心にふれる旅を試みませんか



さくらの里公園（伊豆市湯ヶ島）から『しろばんば』の舞台を望む



香貫山（沼津市）から『夏草冬濤』の舞台を望む